



目次

説教 主の誕生－天使の告知	池永 順一	1
大信仰問答 CATS・愛⑩		
エッセイ「第12章 十戒」	森下 一彦	2
新約聖書に聴く「主の祈り」⑫	後藤 憲正	3
教会、この地とともに⑥ 伊達教会		
福音宣教とディアコニアのために	伊達教会小会	4
SDGsについて考える⑧（目標10）		
介護老人保健施設制度の問題点を考える	小林 正	5
次世代へのメッセージ⑫		
おまけの人生に、祝福あれ	田中 忠良	6
こいのにあ ドストエフスキーとカール・バルトより今を考える	高見 享子	7
こいのにあ 「一日神学校」の報告	熱田 洋子	7
こいのにあ クリスマスの贈りもの	林 光俊	8
教会ニュース		8

主の誕生－天使の告知

すると、天使は言った。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。」

（ルカによる福音書 1:30～32a）

いけ なが じゅん いち
池 永 順 一

かつて、預言者エレミヤは、メシアの到来について語りました。それが次の言葉です。「ダビデのために正しい若枝を起す。王は治め、栄え／この国に正義と恵みの業を行う。彼の世にユダは救われ／イスラエルは安らかに住む。彼の名は『主は我らの救い』と呼ばれる」（エレミヤ23:5-6）と。この預言が成就して、主イエス・キリストは受肉し、私たちと同じ人間として、この地上世界を歩まれたのです。

主の誕生の次第は次の通りでした。天使ガブリエルが、神の使信を伝えるために、ナザレに住むおとめマリアのもとへ遣わされたのです。ガブリエルは、マリアに向かって次のように神の使信を告知しました。「おめでとう、恵まれた方、主があなたと共におられる」（ルカ1:28）と。マリアが、この天使ガブリエルの言葉に戸惑っていると、ガブリエルは言葉を続けて言いました。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい」（ルカ1:30-31）。

イエスという名前の意味は、「主なる神（ヤハウェ）は我らの救い」であります。そして天使ガブリエルは、このイエスと名づけられた赤子が偉大な人物になること、ダビデの王座が与えられること、永遠の支配（権威）を持たれることを語りました。そして、マリアに対して、はっきりと次のように述べたのです。「あなたは聖霊によって身ごもるのだ」と。

この驚くべき天使の告知に対して、マリアは神の御心として従順に受け止め、次のように答えたのです。「お言葉どおり、この身に成りますように」（ル

カ1:38）。このマリアが表した信仰者としての姿勢が、神の祝福を受けることになったのです。マリアは御子の母になることが許されました。そしてマリアは、信仰者の模範となったのです。

私たちの人生においても、思いがけないことや、不思議な体験、驚愕の出来事があると思います。心を刺し貫かれたような状態になることもあります。しかし、どのような状況下においても、主なる神の栄光の光に包まれているのです。かならず、胸をかきむしるような状態から回復されるのです。すべてに打ち勝つ力、乗り越えて行く力が与えられるのです。

私たち信仰者は、何一つとして恐れることはないのです。主なる神によって支えられているからです。喜びのときも、悲しみのときにも神の十字架の愛に支えられて行きます。倒れても再び立ち上がり、主なる神を礼拝し、神に栄光を帰す者とされるのです。マリアもイエス様を出産したときは、人間としての喜びに満たされたと思います。しかし、イエス様が成長し、十字架への道を歩み始めたとき、その心に、母としての寂しさと悲しみの感情が湧き出していったのではないのでしょうか。我が子の幸せを願う気持ち（結婚して、家の仕事を継いで欲しい等）が次第に強くなったとは思いますが。主イエスが全身全霊を込めて受難の道を選びとって行く姿、十字架の上から祈る姿、罪の贖いを果たすことに命のすべてを注いで行く在り方に心を引き裂かれたでしょう。しかし、その絶望的な悲しみが喜びへと変えられていったのです。それこそが、主の復活という新しい命の出来事なのでした。（明石大久保教会牧師）